

今月の管内農業情報(田原農業改良普及課)

[2014年12月18日]

12月の農業情報

タイトル 田原のカーネーション生産者、輸入品への対抗手段を学習！

とき 平成26年11月13日(水)

ところ 田原市内カーネーション生産者ほ場、JA愛知みなみ赤羽根支店(生活会館)

主体・対象 田原カーネーション部会員(11名)

内容

愛知県花き温室園芸組合連合会カーネーション部会の現地研究会が田原市で開催された。本会は県内各産地の持ち回りで毎年行われ、カーネーション生産者及び花き関係者がお互いに情報交換し、学習する場として活用されている。

研究会の午前の部では、田原の生産者が施設をそれぞれ解放し、ほ場視察が実施された。視察ほ場では、愛知県が育成中の新品種展示紹介や情報交換が行われた。田原カーネーション部会員は冬場の収量安定の取り組み等について他産地の生産者から情報収集し、今後の経営への新たな刺激を受けていた。

午後の部の講演会では、農業改良普及課が田原市のカーネーション産地の概要を紹介した後、愛知県農業総合試験場松野技師から「周年安定供給でき、収穫後管理が徹底された輸入品に対抗し、県内産の国内シェアを高めるためには日持ち性向上に取り組むこと、夏季の品質・収量の向上を目指すことが重要である。」と提言がされた。岡山大学後藤教授からは「夏場の遮光を今より弱くしたほうが品質・収量は向上する。施設内が暑くなるので作業環境とのバランスが重要。」と報告があった。

田原カーネーション部会では日持ちを向上させるため、昨年から水揚げ水へ抗菌剤を添加するなど収穫後管理の徹底による品質向上に取り組んでおり、産地の評価は高まりつつある。また後藤教授の報告を聞いた部会員は「次作では遮光方法を見直したい。」と、夏季の品質と収量向上の取り組みに前向きになってきた。農業改良普及課ではこの研修を参考に、部会員の栽培技術向上を目指して指導していく。



愛知県新品種展示ほで情報交換する部会員



講演会に集ったカーネーション生産者